

刊夕日六十月一十

# 常磐每日新聞

定価 一月五拾圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓  
電話 三〇七番  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

## 石城郡下兒童 唱歌會を聴く

根 本 邦 雄

郡下二十四校が湯本校に會して可憐な兒童二千二百餘名が唱歌教育に於ける學習生活の一端として日頃の研鑽を心ゆくまで語つてくれました。

音樂生活者として一隅に耳を傾けてゐた自分は小さな口形の動きと共に浮び出す緩急自在な調にメロデーの流に酔ふて、この日一日まったく虜にされました。

## ノット

裾なほし は誠に億劫なもの

これ等の催しは兒童にとりまして教室的な藝術生活の擴張であり、指導者といつたしましても兒童に附帶した。

た教育生活の延長なので、から、藝術教育の一道程として又團體生活への美化としても誠に結構なことは申すまでもありません。然し藝術そのものに演奏の失敗がないと感じても、藝術は限りなき深さを有す

るもので無限の力がひそむものです、其處で現在をもつて萬成り巧を得たもの考へる事は藝術と呼ぶもの存在が認めたらざる當底考へ得られぬこと、たゆまず深み入り突入することが必然的の欲求と成つて来る

## 二明日の献立

- 【朝】焼き豆腐 おろし生姜
- 【晝】たまご焼き おろし大根
- 【晚】大根 油揚げ 里芋

## 澤です。

自分は常磐毎日新聞社の依頼を受けたので幸ひ本會の一端を社會的に又教育界の爲批判として参考までに氣のついたまゝ發表をして何か今後の足しになるなら結構と存じます。

## 笑話

甲「やア、何處に行つてゐたんだい、暫らく見られなかつたぢやないか」

乙「うん、今虎狩りから歸つて来たところだ」

甲「どうだつた、獲物は？」

乙「うまく行つたよ、幸ひ一匹も出くはさなかつたんだ」



## 田園ナンセンス

### 案山子の婚禮

鈴木保夫

裏の木小屋で正吉は大きな案山子をしらへた破れ帽子に頬かむり筒袖襦袢は盲目編ひよつくりかづいた肩の上お空でお日様笑つてる。

## 石橋渡れば田圃道

吾が田に案山子を立てた『なやい今年は豊年だ御苦勞だんべがなあ案山子しつかり張り番頼んだぞ』作爺さんもこしらいた案山子かついでやつて来た赤い襦袢はつた模様すげ笠かむせりや十八娘鳥が向ふで驚いた艶な案山子があつたもの。

作爺さんは獨り者死んだ娘の名を取つて案山子にお花と名をつけた『御苦勞だんべがなあお花しつかり張り番頼んだぞ、明日の晩から霜が降る、さぞくさぞく寒かんべ』櫻ちらしの手拭を頬にかはせてやりました。

『去年十八初戀に正吉さんを思ひつめ雪より冷たい片戀をい抱いて死んだ花坊よあれ見な今年は正さんが隣りでお前を見て居るだ嬉しかんべにこれお花』

『稻刈りまでは一ヶ月誰に氣がねがっているものかしつくり見合をして置きな秋まで濟すだその時は戀しい正さん貰ひ受けさつと祝言さしてやろ』

『雪より冷たい片戀に殺した罪のつぐないに祝言させずに置くものかそんなにホッペタ赤くして恥かしかるな花坊よ風邪などひかず待て居な』

ごま鹽頭の作爺は生けるお花に言ふやうに腰の手拭目に當て、案山子をゆすぶり泣かれた鳥も悲しと泣いてゐた。

秋まですんで正月の二十七日命日に二つの案山子を前に置き正さん案山子はおむ様お花案山子の花よめに作爺一人で引受けた仲介人やくにお客様三々九度の盃にうたひの聲も涙ぐせ。

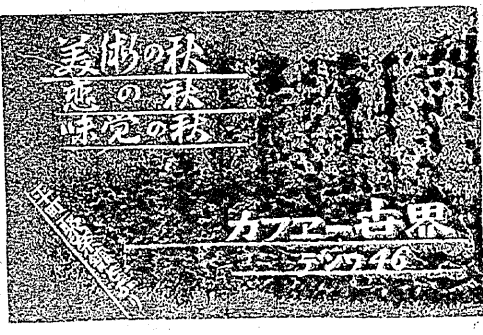
## 藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

### 看護婦急派の求めに應じます

### 平看護婦會

平町南町 電話三〇七番



## 胃腸病妙藥

昔ハ料理ニ必ズ「シ、茸」ヲ用タリ今ハアマリ使ハズ甚不都合ノ次第ナリ「シ、茸」ヲ煎ジ臥寝前ニ服用スレバ胃腸ヲ整ヘ便通正シク氣分爽ナリ諸病ヲ未然ニ防グ効能アリ人助ノ爲メ廣告ス此ノ秋ハ茸類ノ出ル時節ナレバ新茸程効能著シ各家庭ニテ百匁位ツ、常備シ置ク事肝要ナリ

## 吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番

### 移轉お知らせ

紅葉の色鮮やか、晩秋が訪れました弊店事罹災後は殊更に皆様の御同情御盡力によりまして丸新デパート内に假營業をいたして居りましたが今後記の處へ移轉致し一層努力勉強いたすことになりました今後共相變らず御引立に預り度う存じます先は移轉の御挨拶々々御願ひまで。

昭和七年十一月

平町二丁目（三幸堂跡）

### 根本時計店

主根本 義一 電話六〇七番

## 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町田町 電話五一三番

平町二丁目

## 三井タクシ

電話八六五番

# 平町の稲流失に依る

## 損害約二千圓

### 鍛冶町の一町七反歩を

### 筆頭に合計八町二反餘

## 平町役場調査

平町役場にて今回の暴風雨の爲め蒙つた平町の稲の流失被害を調査した結果に依ると最も被害を受けたのは鍛冶町の一町七反歩を最高として

南町一町五反一畝、鎌田一町五反、立町一町一反一畝、月見町一町一反、新町長橋五反二畝、仲間町四反九畝、北白銀一反三畝、新川一反

# 稲の山を

## 平署が目下保管中

### 按分して被害者へ

平警察署では今回の暴風雨出水に依り平町新川及び夏井川に押し流された多数の稲把を消防組青年團等と協力して引揚げ全部を大町地内公會堂敷地に保管中の處に給得數と届出數とを按分の四千把、外四十名より三

## 平土木監督所管内

### 被害後報續々至る

### 判明せる損害五萬圓

既報土木監督所管内

風 雨被害は昨報の如くある

が其後判明した分に依ると川部村地内鮫川護岸廿間欠

## 小名港の沈没船

### 流失船合して十隻

石城郡小名濱築港内に繋留中激浪の爲め同町古港三八野崎定徳所有船諏訪丸及び古港小野治郎八所有船が沈没した外港外に流失せる船名及び所有者は左の如くである

(萬盛丸)上町、圓吉之助 (大高丸)古港、高木善吉 (第一盛徳丸)下町、馬上政一(船名不明)古港、中野由次郎(同)同、小野徳藏(第三明神丸)中坪、比佐建三郎(恵比壽丸)古港、小野虎之助(隆運丸)沖見町、竹長重藏

## 金五百圓

### 退職慰勞に

平庶民金庫總代會は昨日午後一時より同樓上に於て開き今回理事長を引退した青沼鋒太郎氏に對する退職慰勞金を協議の結果満場一致金五百圓を贈呈する事に決定終つて新舊理事長の歡送迎會を谷口樓に於て催した

壤して損害二千圓、植田町地内鮫川堤防六十間欠壤損害三千圓の外泉村の釜戸川及び藤原川、錦村の蛭田川等にも損害あり飯野村南白土地内土橋流失等もあり道路の主なるは錦村大倉地内國道三十餘間破損の損害二千圓と錦村に三ヶ所、植田三ヶ所、勿來三ヶ所の道路何れも破壊し目下應急工事中であるが同署管内で現在判明せる被害のみにても約五萬圓に達して居ると

## 練習打切

### 平商で納會

平商業學校競技部にては來る二十日練習納會を開き本年の練習を打切る由

## 全國校長會の

### 提出議案協議

既報平第一小學校長會我直治氏は本縣代表として出席する第一回全國小學校長會への提出議案に關し本日午前十時より左記各小學校長の參集を乞ひ種々協議した

## 青訓演習

### 種々の協議

石城郡青年訓練所主事及び教練指導主任會議は本日午後一時より平第一小學校講堂にては來る十八日午前

## 平町の學級増加

### 學務委員會で協議

た正木校長の報告あり保護者會に關する打合せを行つた

## 平商職員會議

業學校にては十八日午後一時より職員會を開き去る十日より三日間福島市に於て開かれた縣下中等學校長會議會に出席した矢野校長及

び縣下商業教育協議會に出席した武川教諭の各報告ある外生徒心得制定の件に付協議を行ふと

## 平職業紹介所報告

回人を求める方  
△書籍外交員、五十才迄  
△高卒、給料歩合(平町某)  
△旅館女中、二十五才以下  
△尋卒、給料面談(平町某)  
△雑夫、二十五才、尋卒  
△月八圓位(四倉町某)  
△大工徒弟、十八才、尋卒  
△回職を求める方  
△印刷機械工、十六才、中學半退、給料面談(内郷村某)  
△出前持、二十才、高卒  
△給料面談(平町某)  
△雑夫、四十二才、尋卒  
△給料面談(平町某)  
△活版工、十七才、高卒  
△給料面談(平町某)  
△女事務員、十七才、高女卒、給料面談(平町某)

## 平町人事

回出 生  
△五丁目二二 當時石城郡内郷村字濱井場渡邊幾一氏四女和枝  
△四丁目三三 佐藤四太郎氏二女京子

## 市原醫院

平町一丁目  
電話一四番

## 藤沼醫院

平町紺屋町  
電話五〇七番

# 中村齒科醫院

平町鍛冶町七

# 宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

美味!

芳醇!

# 死體一個をのせて

## 難破船が漂流

### 乗組員十七名は

#### 全部激浪にさらはる

石城郡高久村海岸に十五日朝漂着せる漁船あり機械室に一個の屍体横はるのみで散々激浪の翻弄に委せられたる如く船体痛く大破し何處の船とも判明しなかつたが其後平署で調査した結果双葉郡久之濱町字江網綾波庄大郎所有寶來丸七十馬力である事が判つた同船は舟主庄太郎以下十七名乗組石巻よりの歸途激浪の爲乗組員全滅し機械手の櫻井周助

の屍体のみ残して高久海岸に漂着したもので行衛不明の船員左の如くである  
綾波善七(四)綾波善吉(三)高梨平七(四)小景徳太郎(三)鈴木金之助(三)片山捨吉(三)鈴木勝太郎(三)鈴木善三 鈴木千代松 小泉寅之助(三)鈴木數雄(一)小松庸一(三)鈴木政雄(三)四家藤吉(三)小田倉晋吉(一)

静岡の貨物船が  
小名濱で難破  
消防組を出動し  
積み荷を陸揚中

昨日早朝石城郡小名濱沖合を航海中であつた静岡縣沼津市我入道三五二岡本一郎兵衛所有貨物船興國丸(百噸)は船長後藤熊太郎(五)外八名乗組み魚油一萬箱、桐板三百五十貫を積載して暴風雨に襲はれ木の葉の如く翻弄され小名濱町西町海岸暗礁に乗り上げたので同町消防組其他が駆付け乗組員を救助し目下積荷を陸揚中

であると損害三萬三千圓  
四倉の秋市 石城郡四倉町秋市は来る廿日より三日間仲町地内に行はれるが本年は藪相場の好況を見ただので相當人出が多からうと  
詐欺求刑通り 昨報南會津郡旭田村生れ目下住所不定前科二犯渡部文藏

## 金つちで滅ツ太殿り

### 負傷せしめた三名の内

#### 一名が死亡し判檢事急行

##### 犯人は 釋放された儘 何れへか逃走

茨城縣鹿島郡波崎町秋刀魚漁船稻荷丸乗組員糸川金次郎(三)は去る八日午後九時頃石城郡小名濱町古港飲食店長瀬しな方に於て飲酒中同じく隣座敷に於て飲酒中の千葉縣銚子町秋刀魚漁船岩合丸乗組員石川兼治(三)外三名と些細の事から喧嘩をなし糸川は所持せる金槌を揮つて三名を殴り負傷せしめ小名濱派出所に引致  
取調べの結果一先づ

茨城縣鹿島郡波崎町秋刀魚漁船稻荷丸乗組員糸川金次郎(三)は去る八日午後九時頃石城郡小名濱町古港飲食店長瀬しな方に於て飲酒中同じく隣座敷に於て飲酒中の千葉縣銚子町秋刀魚漁船岩合丸乗組員石川兼治(三)外三名と些細の事から喧嘩をなし糸川は所持せる金槌を揮つて三名を殴り負傷せしめ小名濱派出所に引致  
取調べの結果一先づ

## 妻子への未練から

### 養父の無情を恨む

#### 赤井の殺人事件……

##### 來廿四日第一回の公判

既報東白河町近津村大字流字門の内一番地生れ目下石

明日のラジオ  
十七日  
報豫氣天  
晴曇り明日は晴れ模様

今晚の部  
後六、〇〇 子供の時間  
童謡と唱歌 阿部秀子外  
ピアノ伴奏松山智恵子  
後七、三〇 講演一儒書開  
時より平區裁判所に於て開廷中島判事より檢事の求刑  
延中島判事より檢事の求刑

明日の部  
前九、四〇 玉錦横綱授興式状況「熊本吉田司家邸内より中継」  
前一〇、三〇 家庭講座「家庭に於ける工業常識」津田信良  
後〇、〇五 連續講談「梅ヶ枝仙之助」一太田貞水  
後一、二〇 東京大學野球リーグ應法決勝戦  
後五、〇〇 數學講座「高

見豊  
後六、〇〇 子供の時間  
童謡「父の祈り」安倍秀雄  
後七、三〇 講演「將來の國民体育について」嘉納治五郎  
後八、〇〇 俚謡「田播唄」外八曲高橋剛其他  
後八、三〇 歌澤二つ歌  
澤寅由喜 歌澤寅清子  
後八、五〇 浪花節「孝子孝助」東家樂遊

## 出水に押流されて

### 七歳の幼女が溺死

石城郡小川村字下小川吉田賢藏二女カネ(七)は十五日午前九時頃自宅附近の出水箇所を通行中深所に轉落して溺死した

## 野喜久温習會

仲町琴曲遠藤佐喜野師の一門野喜久會にては来る二十日晝夜の二回に亘りマルトモホールに於て温習會を催す

科人婦・科外  
院醫坂井  
町田町平  
番九五五話電

耳鼻咽喉科専門  
大和田醫院  
平町南町  
電一七〇

鈴木時計店  
平驛前通り

御修繕は  
技術に絶対自信  
を持つ弊店へ  
ダイヤ堂

金銀  
高價買入致します！

斯界の權威!!!  
大塚の靴  
自製編上靴 六圓  
學生靴 女學生半靴 五圓  
紳士靴 弊店自慢の  
平田町 流行新形  
大塚製靴部  
電話七七番

# 素来不変

【禁載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第二一席 平手

油断を見澄し  
平手は助五郎が逃げたと聞いて

造「おしい事をしたな、然し是程あばれて置けば笹川方の威力を示すには充分、まづ喧嘩は勝た、大將の居らぬ所に長居をするは愚な事である、今の内に引上げろ、何うだ怪俄をした者はあるか」

富「四五人あるやうに思ひます」  
造「死んだ者はないか」  
富「佛になつたものはなさそうです」  
造「それは目出度い、飯岡の奴等は五分死んだやうだな」

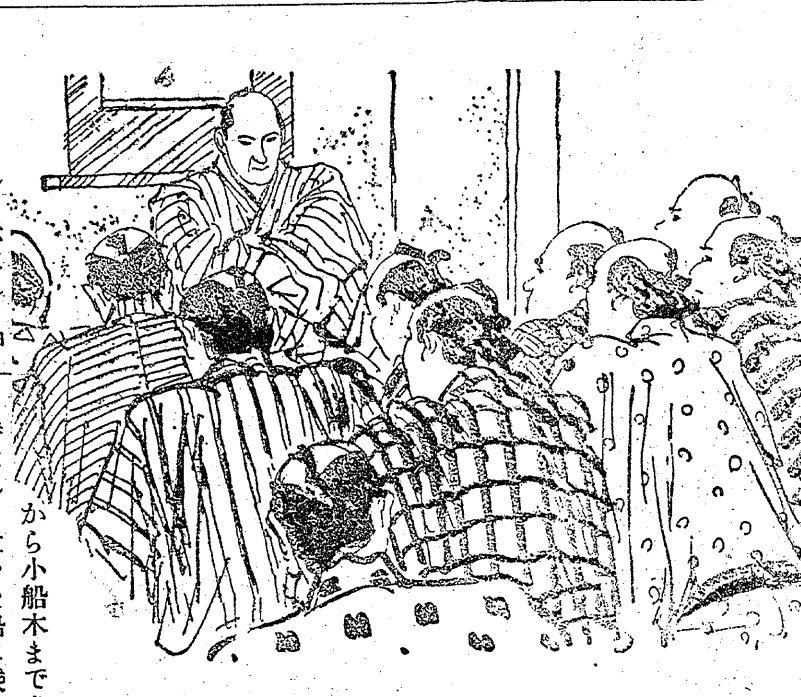
富「七八人即死があるやうでございます」  
造「さうか、さア今の内に退散いたせ夜が明けると面倒だ」

打揃つて此處を出ると土地の者が四五人にて行手を立ちきつた、これを見た繁蔵がツカ／＼と進み寄り

繁「どうぞ皆さんお聞き下さい、私共は物取りでございませぬ、助五郎に恨みがあつて押して参つた者でございます、所で助五郎は逃げ去りましたぞ、私

は一時こゝを引揚げます皆さんの騒がしたは誠にお詫びのいたしやうもなき不埒な所爲にございませぬ、男を立てる者には憐れ云ふ事が往々ございませぬ、どうぞお下さいますし」

同打揃つて来て参りましたが、繁「それは御苦勞様でございます、もう喧嘩は済みました、さアお引取り下さいませ」  
○「お前さん方は何處の者だ」  
繁「笹川の繁蔵で御座います」  
○「ハア繁蔵親分かどうも遠方の所を御苦勞様で御座いますお勝手に引取り下さいませ」  
と會釋をした、これでは葬式の施主のやう、繁蔵は怪俄をした者に手當をして下さいます」



とおとなしく云はれて押寄せて来た者も、○「ア、さうですが、私共は助五郎親分の許に強盗が入つたものとのみ思つて居りました又火事だと云ふ者もございませぬ、それ故一

七人あり手負が十三人然も何う云ふ考へを持つてるか助五郎はこの事を秘密にしてゐる、これは公然にする自分の恥になる、銚子の陣屋の御用を聞いて居る事として斯う云ふ時には都合がよい、繁蔵は向ふから人数が出ぬは此方の威勢に驚いたかそれとも時節を待つて仕返しをするつもりか、こゝ當分油断は出来ぬと用心をしたが何の沙汰もない、すると平手造酒は床に就いた繁「先生お前さんの様な強造「洵に残念であるが病氣では致し方もない」  
繁「まア當分櫻井の幸福寺へ行つて養生したららうございませう」

と云はれて造酒も承知したこの櫻井の幸福寺と云ふ所は笹川より遠くも離れずそれに閑静な所ですその寺院へ平手は行きこれにて養生をする、これは繁蔵は土屋と云ふ屋號で旅人宿をして居るから出入りの人も多い、それ故ゆる／＼養生する事も出来ない、さういふ譯で寺に置いた此方は飯岡の助五郎です、繁蔵の油断を見澄まして茲に子分を飯岡の住まひに呼びよせた繁蔵に斬り込まれた爲家は半分荒されそれに修繕を加へて何うやら住む事の出来るやうになつた、廣間に主立つた者を集めたが、正面一間の床には銚子の五郎藏と申す助五郎の親分の畫像をかゝげその前に勝ち栗、熨斗、昆布を三寶に積み上げ

神酒を供へてある、時に助五郎一同に對ひ  
助「お前方も知つての通り俺は銚子の五郎藏どんに引立てられて男になつた、又五郎藏が亡くなる時に繩張りをして貰つてくれた、それを一ヶ所でも失くしては佛に濟まぬと一生懸命にそれを護つて居たが、今に笹川の繁蔵の爲にくさみを付けられた上はこの儘に捨て置く事は出来ぬが、お前方は何う思ふ」  
と憐れ云ひました。

## 梅毒 淋病

淋病 皮膚病 婦人病 胃性 腸病

村松 院 科 醫 院  
〇七一話電

## 別府温泉

りん病 永らく悩む人の福音  
天下の名湯別府温泉で出来た無効返金責任薬  
こしげ  
全國知名新聞 こんなヨイクスリを未だ知らな  
雑誌 推奨 一方があらませうか  
右は岩里家古來よりの家傳秘法薬にして男女血らし  
慢性淋病、こしげ、濁湯の病みは不思議に止り連服  
するも絶對胃腸傷害なき各業であります。  
尚ほ此の薬は責任速効薬で二日内服して効なき時は  
發藥引換に全額異議なく返金します。  
論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢  
性、悪性の人は七日以上服差して下さい。  
美本淋病治療書無代進呈 此の新聞各記入申込者に  
付前金申込者には送料無料、新品送藥す。  
代金引換廿三錢手数料金納の事。

薬價 慢性用(赤箱) 一週分 五圓  
急性用(黒箱) 一週分 參圓  
特約 一平町古殿治町一〇  
手販賣 阿康藥舖  
縣社ノ下(電話四四番)

## 久松屋商店

磐城セメント會社特約店  
磐城平町五丁目 電話九番九九番  
□良品廉賣に勝る商略なし  
□確實敏捷は久松屋の生命なり

## お醤油は ヤマフル

醬油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品  
鹽屋  
山崎合名會社  
福島縣平町(電話營業部三樓工場毛)  
明治生命磐城代理店 山崎與三郎